

平成 29 年度・30 年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



平成 30 年 11 月 22 日(木)

阿久根市立三笠中学校

目次

1	校区と学校の概要	1
2	研究の概要	
(1)	研究主題	2
(2)	主題設定の理由	2
(3)	研究の目標	2
(4)	研究組織	3
(5)	租税教育全体計画	4
(6)	研究の経過	5
3	研究の実際	
(1)	平成 29 年度租税教室について	6
(2)	平成 30 年度租税教室について	8
(3)	国語科や総合的な学習の時間における 「税の作文コンクール」への応募	13
(4)	英語科における租税教育授業	14
(5)	社会科における租税教育授業	15
(6)	生徒作品(作文, 習字, ポスターなど)	17
(7)	全校朝会での実施	20
(8)	家庭教育学級での実施	20
4	アンケートの実施	21
5	研究のまとめ	24
6	おわりに	24

1 校区と学校の概要

(1) 阿久根市の概要

阿久根市は、高松川河口の阿久根港を中心に古くから海・陸交通の要衝として海運業・商業などが栄えた町である。東シナ海に面した約 40 キロメートルにも及ぶ美しい海岸線や沖合い約 2 キロメートルに浮かぶ阿久根大島は、海水浴や釣りのメッカとして知られており毎年多くの観光客が訪れる。

沿岸を洗う黒潮は、至るところに亜熱帯の植物を育み、温暖な気候を利用した農業や水産業も盛んである。



〔 阿久根市の場所 〕



〔 阿久根市の木「ボンタン」 〕

(2) 校区の概要

薩摩半島の西端に位置し、南に阿久根大島・脇本海水浴場(日本 100 快水浴場)、西に長島・黒之瀬戸大橋、東に紫尾山など山海をいただく自然環境に恵まれたところに学校がある。校区内には、明治時代の文部卿寺島宗則の生家があり、保護者の教育に対する関心は伝統的に高く、地域の協力態勢も充実している。本校の近くには脇本古墳群もあり、歴史と文化の町である。

(3) 学校の概要

生徒は明るく素直な生徒が多く、生徒会を中心に「さわやかなあいさつあふれる 三笠中」を目指している。

生活実践目標に「美(場を清める), 礼(礼を正す), 時(時を守る)」を掲げ、日々実践している。豊かな自然に恵まれ、花々が美しく、落ち着いた雰囲気のある伝統ある学校である。

また本校では、郷土教育の一環として、伝統芸能「山田楽」の伝承に取り組んでいる。



〔 体育大会での「山田楽」の披露 〕

2 研究の概要

(1) 研究主題

租税教育を通して、租税について正しい知識と理解を深めるとともに、今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

(2) 主題設定の理由

私たちが納める租税は、社会資本の整備や社会保障の充実など国民の生活と福祉の向上を図るために使われ、国や地方公共団体が行う様々な公共的なサービスを提供するための財源となる。納税者である私たちは、税金を納める義務を果たすだけでなく、税の使いみちについて関心を持ち、国や社会のあり方について主体的に考えていくことが大切である。

したがって、国や社会を支える税の意義や役割を理解し、税を通して国や社会のあり方について考える租税教育は、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」（教育基本法第2条1項3号）ためにも重要である。

また、鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土への関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことをねらいとしており、身近な郷土についての知識や郷土愛の精神や態度を育てることは、今後の郷土や国のあり方について主体的に考えていく態度を育成することができるものと考えている。

これまで本校では、社会科を中心とした授業や租税教室、国語科を中心とした税に関する作品の出品等を通して、租税に関する学習を進めてきた。しかしながら、生徒の税に関する興味・関心や知識・理解の向上につながっていなかった。

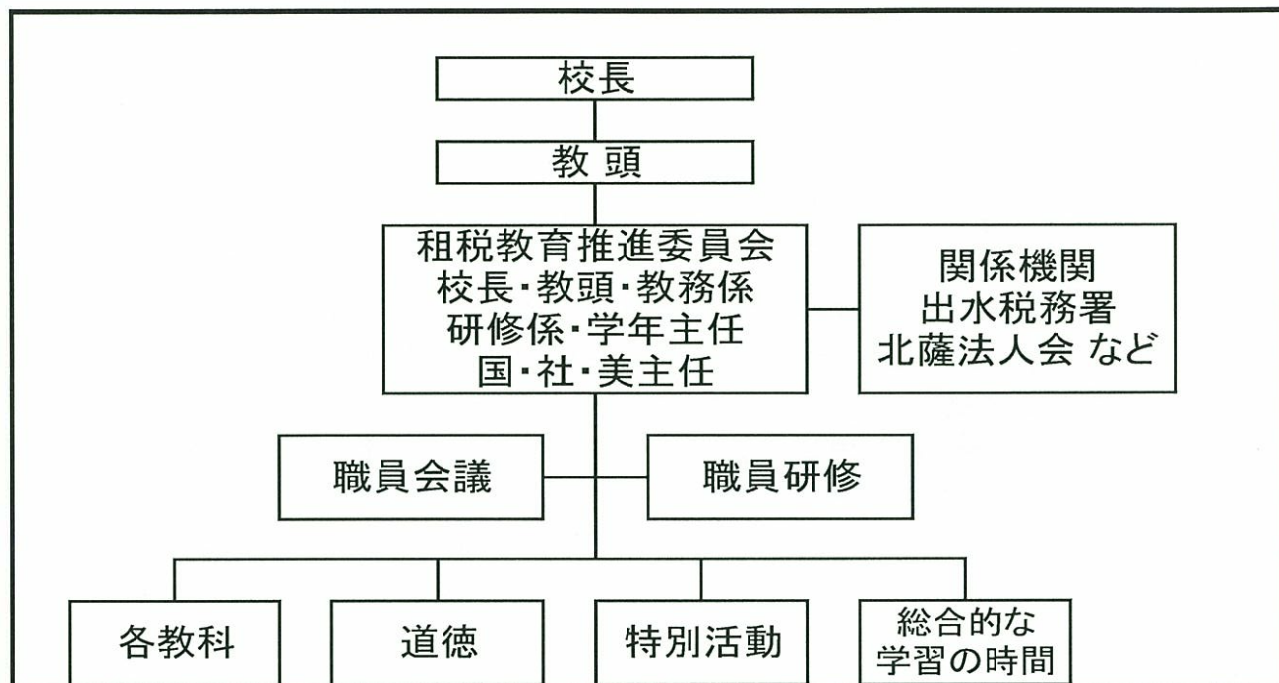
このようなことから、租税教育を通して、学校の教育活動の全領域で税に関する内容を再検討し、視点を明確にしながら実践活動に取り組むことにより、租税についての正しい知識と理解を深めさせたいと考えた。さらに国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てていきたいと考え、この主題を設定した。

(3) 研究の目標

- ア 税に関する興味・関心を高め、税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- イ 学校の教育活動の全領域において税に関する内容を再検討し、視点を明確にしながら実践活動に取り組む。
- ウ 今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

(4) 研究組織

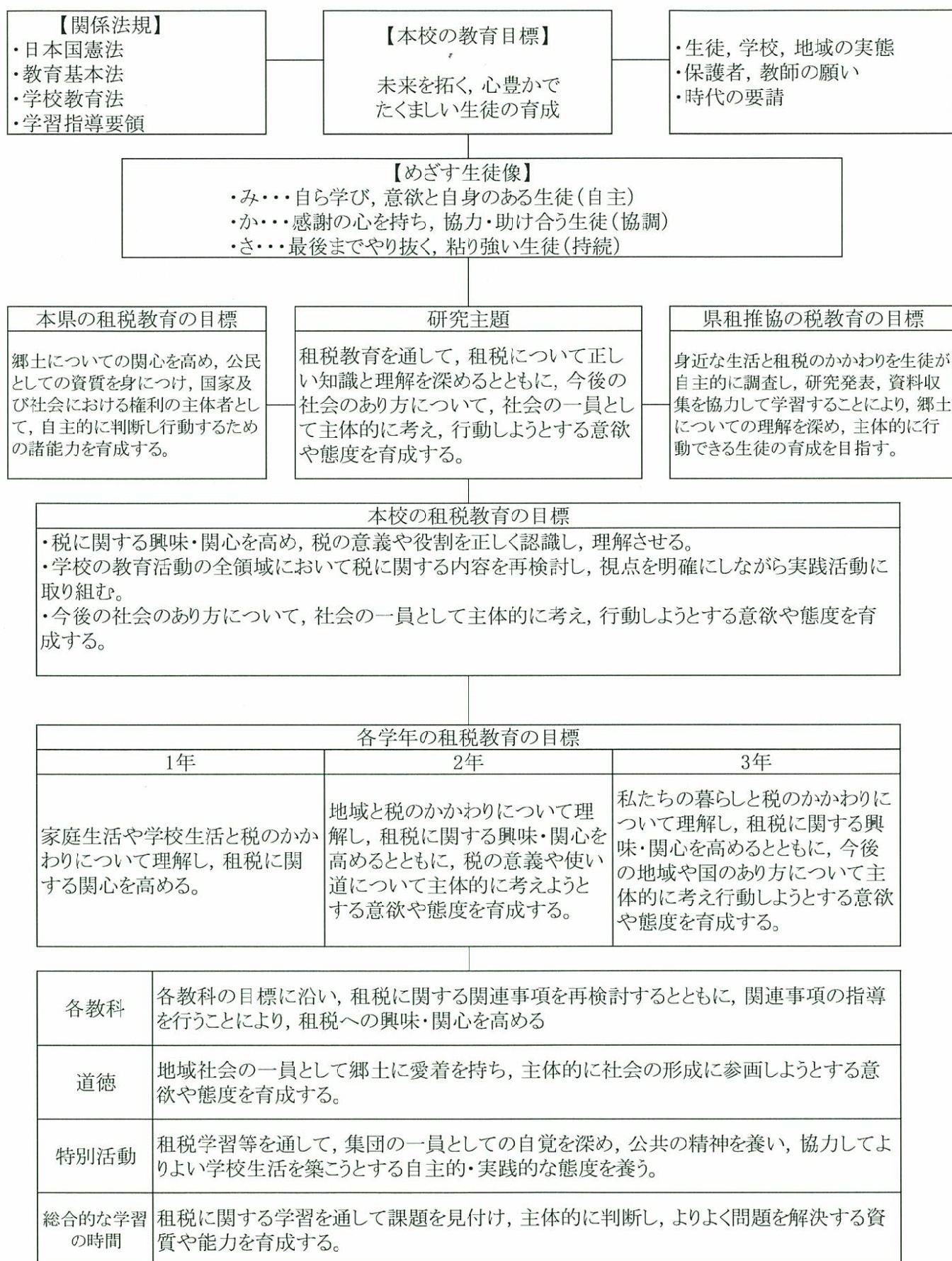
租税教育の推進にあたっての研究組織として、租税教育推進委員会を発足させた。定期的に委員会を開催することで、各教科や各分掌と連携を取りながら、学校全体として租税教育を推進する中心的な役割を果たしている。



租税教育の目標を達成するために、以下の2つに重点をおき、取り組むこととした。

- ① 租税教育を通して、生徒たちに社会的な責任と義務について認識させ、主体的に行動する態度を育成する。
- ② 租税教育を通して、租税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識を身につけさせる。

(5) 租税教育全体計画



(6) 研究の経過

① 1年目(平成29年度)

月	内容	担当
4	租税教育研究推進校委嘱の確認	租税教育
5	租税教育研究推進校委嘱状の交付	租税教育
6	平成29年度第1回租税教育推進委員会	租税教育
	研究主題, 研究計画の決定	租税教育
7	税に関するアンケートの実施	租税教育
8	平成29年度第2回租税教育推進委員会	租税教育
	税に関するアンケートの集計および分析	租税教育
9	税に関する作品(作文, 書道, ポスター)応募締切	各教科
10	「租税教室講師養成研修会」への参加	租税教育
12	「鹿児島県租税教育研究会」への参加	租税教育
	租税教室(3年生対象) 12月12日(火) 出水税務署職員	租税教育
2	租税教室(2年生対象) 2月8日(木) 出水税務署職員	租税教育
3	平成29年度第3回租税教育推進委員会 1年目の反省	租税教育

② 2年目(平成30年度)

月	内容	担当
4	平成30年度第1回租税教育推進委員会	租税教育
	年間計画の確認	租税教育
5	租税教室の打ち合わせ	租税教育
	租税教室の開催 5月18日(金) 財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員	租税教育 総合的な 学習
6	税に関するアンケート	租税教育
7	平成30年度第2回租税教育推進委員会	租税教育
8	税に関するアンケートの集計および分析	租税教育
9	税に関する作品(作文, 書道, ポスター)応募締切	各教科
	研究のまとめの作成	租税教育
10	「租税教室講師養成研修会」への参加	租税教育
	一日遠足における税務署訪問(3年生)	3年部
11	「鹿児島県租税教育研究会」への参加	租税教育
2	平成30年度第3回租税教育推進委員会 2年目の反省	租税教育

3 研究の実際

(1) 平成29年度租税教室について

出水税務署職員による租税教室を以下の要領で行った。

① 目的

- ア 税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- イ 今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

② 期日

- ア 1～2年生：平成30年 2月 8日（木）
- イ 3年生：平成29年12月12日（火）

③ 場所：三笠中学校体育館

④ 出水税務署 総務係長

⑤ 内容

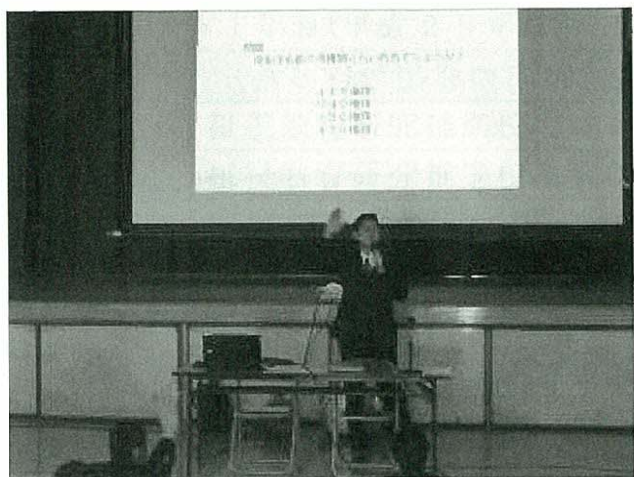
- ア 税金クイズ
- イ 主な税金の種類
- ウ 税金の使い道
- エ DVD視聴
「税についてもっと知ろう！～野口拓男先生のただいま授業中」
- オ 今後の課題
- カ 1億円はどれくらいの重さ？（レプリカによる体験）

⑥ 準備するもの

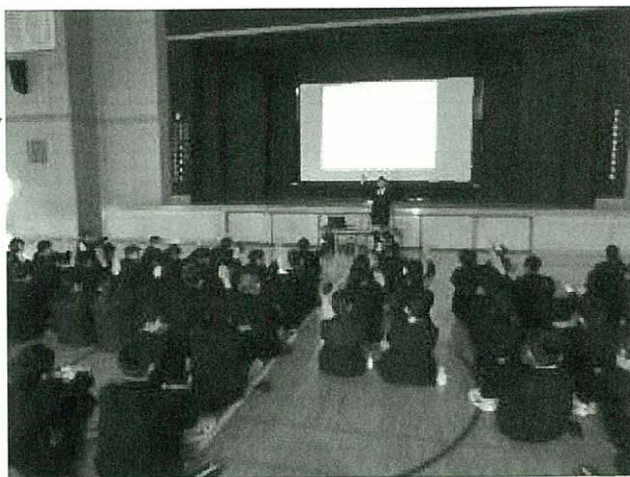
パソコン、プロジェクター、マイク、講師の席 演台 等

⑦ 注意事項

- ア 5時間目が終わったら、筆記用具を持って体育館へ集合させてください。
- イ 途中、グループ活動（話し合い活動）が入る予定です。学級で2つ（男女）または4つ（男子2つ女子2つ）程度のグループにうまく分かれるよう指導、支援をお願いします。・・・指導者の指示に従う、特にない時は振り分けをお願いします。
- ウ 3年生は社会科の時間で実施します。1～2年生は、総合の時間で実施しますので、1・2年部の先生方はサポートをお願いします。



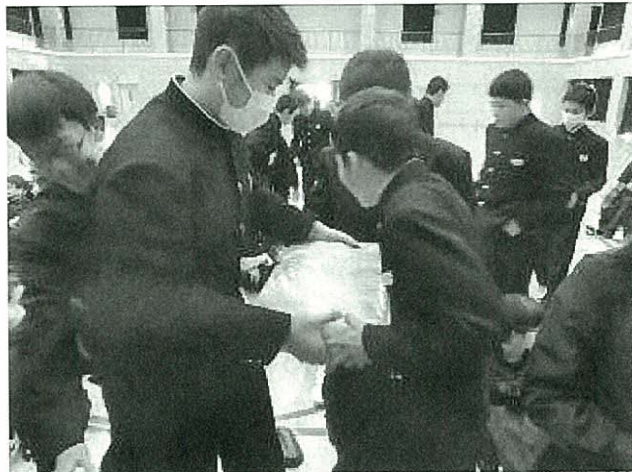
〔 講師の先生の説明 〕



〔 クイズに参加する生徒たち 〕



〔 講師の説明を聞く生徒たち 〕



〔 1 億円のレプリカに触れる生徒① 〕



〔 1 億円のレプリカに触れる生徒② 〕



〔 講師の先生にお礼を言う生徒会長 〕

(2) 平成 30 年度租税教室について

財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員による租税教室を以下の要領で行った。

① 目的

- ア 税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- イ 今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

② 期日

※ 総合的な学習の時間に、2 時間連続で学年ごとに行う。

- ア 1 年生：平成 30 年 5 月 18 日（金） 1 ～ 2 時間目
- イ 2 年生：平成 30 年 5 月 18 日（金） 3 ～ 4 時間目
- ウ 3 年生：平成 30 年 5 月 18 日（金） 5 ～ 6 時間目

③ 場所：三笠中学校体育館

④ 講師：財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員

⑤ 内容

【前半】

- ア 日本の財政の現状についての話《約 15 分》
- イ 日本の「財政」を考えよう《約 13 分》
- ウ グループワークの説明《約 10 分》
- エ グループワーク《約 10 分》

日本村の役員になったつもりで、平成 30 年度の予算を作ってみよう。どのような社会にしたいか、考えてね。

【後半】

- ア グループワーク《約 20 分》
- イ 各グループによる発表《約 25 分》
- ウ 振り返りシート記入

タブレット端末を 10 台用いた授業になります。グループ編成については、出席番号順で 4 人組になります。このとき、いくつかのグループが 5 名になります。

⑥ 準備するもの

パソコン、プロジェクター、マイク、講師の席 演台 等

グループワークで使用したワークシート

「日本村」の予算を作ろう！

(役員名簿: 組 _____)

目指したい村の方向性: ①低福祉・低負担、②中福祉・中負担、③高福祉・高負担
この予算のポイント:

社会保障
(医療・年金・介護・少子化対策)
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

地方交付税
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

教育
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

科学技術
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

公共事業
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

防衛
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

食料安定供給 []

エネルギー対策 []

経済協力 []

中小企業対策 []

※[]には、1～5 を記載

借金返済(24 万)
※変更できない

所得税
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

消費税
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

法人税
1. 大幅に増やす
2. 少し増やす
3. 大幅に減らす
4. 少し減らす
5. 今までどおり

ガソリン税 []

相継税 []

酒税 []

※[]には、1～5 を記載

・その他の税金等(9.5 万円)
【今回変えず】

新たな借金の金額
「 」万円

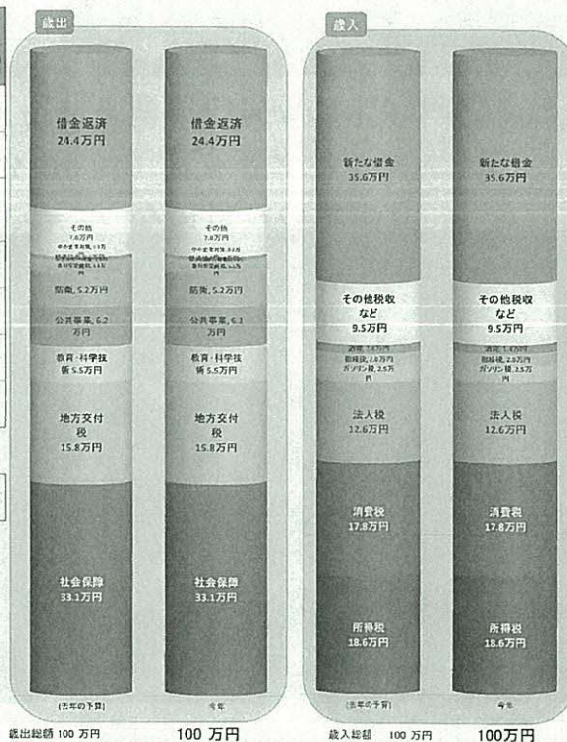
※最後にタブレットから

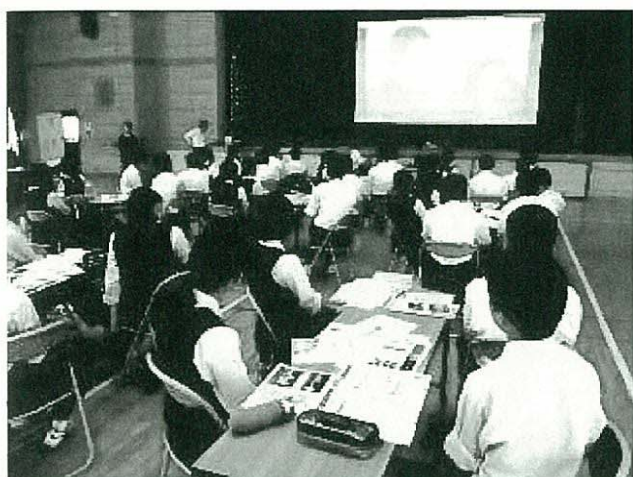
グループワークで使用したタブレットの画面

「日本村」の予算を作ろう！ 入出カシート

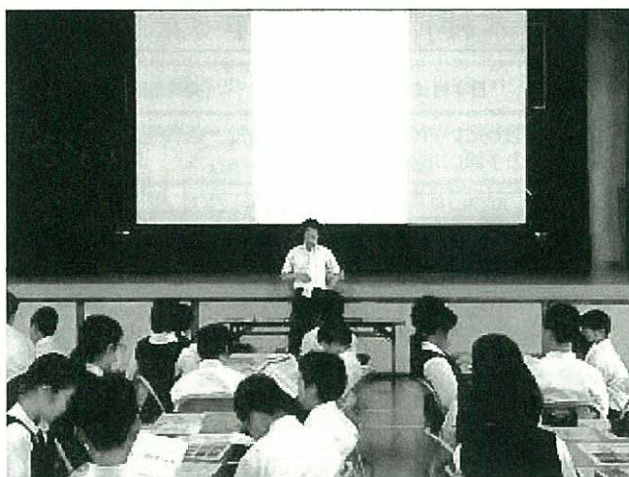
歳 出			歳 入		
増額・減額・現状維持	増減額 (自給)		増額・減額・現状維持	増減額 (自給)	
社会保障	現状維持	+0.0	所得税	現状維持	+0.0
地方交付税	現状維持	+0.0	消費税	現状維持	+0.0
教育 (授業料、教科書代など)	現状維持	+0.0	法人税	現状維持	+0.0
科学技術	現状維持	+0.0	ガソリン税	現状維持	+0.0
公共事業	現状維持	+0.0	相継税	現状維持	+0.0
防衛	現状維持	+0.0	酒税	現状維持	+0.0
食料安定供給	現状維持	+0.0	その他税金など	現状維持	+0.0
エネルギー対策	現状維持	+0.0	新たな借金	※変更しない (9.5万円)	
経済協力	現状維持	+0.0			
中小企業対策	現状維持	+0.0			
その他	現状維持 (7万円) ※変えられない				
借金返済	現状維持 (24.4万円) ※変えられない				

※赤色は、人々の負担増加や経済への悪影響が考えられることを示す(歳出と歳入で逆になっている)。





〔日本の財政状況を聞く生徒たち〕



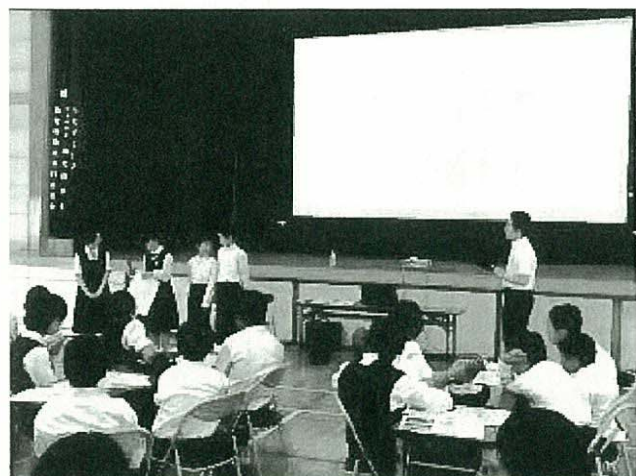
〔講師の説明を聞く生徒たち〕



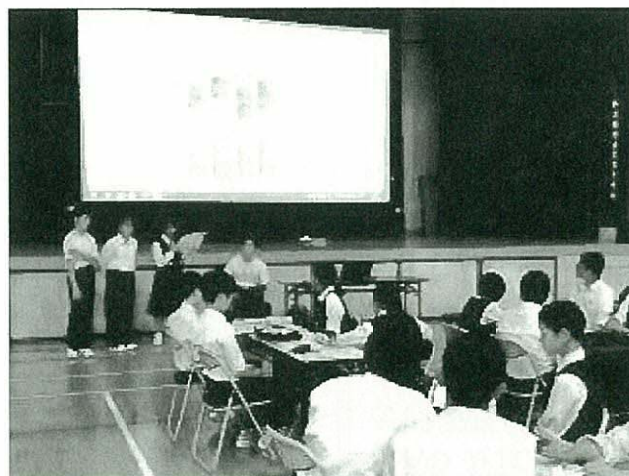
〔グループワークの様子①〕



〔グループワークの様子②〕



〔各グループの発表①〕



〔各グループの発表②〕

グループごとにワークシートやタブレットを用い、グループ内の意見を集約し、「日本村」の予算を作ったワークシート(1年生)

「日本村」の予算を作ろう！ (役員名簿: 組 _____)

目指したい村の方向性: ①低福祉・低負担、 ②中福祉・中負担、 ③高福祉・高負担
この予算のポイント:

社会保障 (医療・年金・介護・少子化対策) 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 高齢化が進んでいて社会保障費がどんどんかかっていくから減らすのはいいと思う。	地方交付税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり	教育 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 教育は大切だから今のままでは足りないと思う。	科学技術 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 技術がなければ発展しないから増やす。	公共事業 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 減らすと不便だから増やす。	防衛 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 防衛は必要だから減らす必要はない。
食料安定供給 [] エネルギー対策 [] 経済協力 [] 中小企業対策 [] ※[]には、1～5を記載	所得税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 入ってくるお金を増やしたい。	消費税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 借金を減らすために消費税を増やしたい。	法人税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 法人を増やしたい。	ガソリン税 [1] 相続税 [2] 酒税 [4] ※[]には、1～5を記載	新たな借金の金額 「 」万円 ※最後にタブレットから
借金返済(24万) ※変更できない	その他の税金等(9.5万円) 【今回変えず】				

グループごとにワークシートやタブレットを用い、グループ内の意見を集約し、「日本村」の予算を作ったワークシート(2年生)

目指したい村の方向性: ①低福祉・低負担、 ②中福祉・中負担、 ③高福祉・高負担
この予算のポイント: ②の中福祉・中負担で、借金を減らす。

社会保障 (医療・年金・介護・少子化対策) 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 高齢化が進んでいて社会保障費がどんどんかかっていくから減らすのはいいと思う。	地方交付税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 入ってくるお金を増やしたい。	教育 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 教育は大切だから今のままでは足りないと思う。	科学技術 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 技術がなければ発展しないから増やす。	公共事業 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 減らすと不便だから増やす。	防衛 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 防衛は必要だから減らす必要はない。
食料安定供給 [5] エネルギー対策 [4] 経済協力 [5] 中小企業対策 [4] ※[]には、1～5を記載	所得税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 入ってくるお金を増やしたい。	消費税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 借金を減らすために消費税を増やしたい。	法人税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 法人を増やしたい。	ガソリン税 [1] 相続税 [1] 酒税 [1] ※[]には、1～5を記載	新たな借金の金額 「 11.5 」万円 ※最後にタブレットから
借金返済(24万) ※変更できない	その他の税金等(9.5万円) 【今回変えず】				

グループごとにワークシートやタブレットを用い、グループ内の意見を集約し、「日本村」の予算を作ったワークシート(3年生)

「日本村」の予算を作ろう！ (役員名簿: 組 10, 11, 12, 27, 28)

目指したい村の方向性: ①低福祉・低負担、②中福祉・中負担、③高福祉・高負担
この予算のポイント: 必要なら、社会保障を少し大きく増やす。必要なら、税金を減らす。

社会保障 (医療・年金・介護・子育て対策) 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 社会保障は、高齢者や子育て世代に必要。増やすべき。	地方交付税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 地方交付税は、地方自治体の運営に必要。増やすべき。	教育 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 教育は、未来の世代に必要。増やすべき。	科学技術 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 科学技術は、産業の発展に必要。増やすべき。	公共事業 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 公共事業は、地域の発展に必要。増やすべき。	防衛 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 防衛は、国の安全に必要。増やすべき。
食料安定供給 [5] 今 エネルギー対策 [5] 今 経済協力 [1] 今 中小企業対策 [2] 今 ※[]には、1～5を記載	所得税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 所得税は、国の収入源。増やすべき。	消費税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 消費税は、国の収入源。増やすべき。	法人税 1. 大幅に増やす 2. 少し増やす 3. 大幅に減らす 4. 少し減らす 5. 今までどおり 法人税は、企業の負担。減らすべき。	ガソリン税 [5] 今 相続税 [2] 今増 酒税 [1] 今減 ※[]には、1～5を記載	新たな借金の金額 100万円 ※最後にタブレットから

借金返済(24万) ※変更できない

その他の税金等(9.5万円) [今回変えず]

生徒4～5人で1台のタブレットを使い、グループごとに予算編成のシミュレーションを行った。歳出面は社会保障、地方交付税、教育、科学技術、その他の各項目を設定し、それぞれどの程度増やすのかあるいは減らすのか考えさせた。一方、歳入面は所得税、消費税、法人税、その他の各項目を、どの程度増やすのかあるいは減らすのかを考え、歳入が足りなければ新たな借金をするなどの予算編成のシミュレーションを行った。

タブレット使用前に、「日本村の様子」という資料で、「多様な視点から日本村の現状と課題」が説明された。次に、「日本村のお財布状況」という資料で、「予算を編成する上で、比較・関連・検討が必要なこと」が説明された。最後に「『日本村』の予算(100万円)の内訳」という資料で、「歳出と歳入の内訳」が説明された。

3つの資料をもとに、多様な視点から各生徒が予算のアイデアを出し、議論をしながら、各グループでの予算編成会議を経て、予算案の合意形成を図った。

タブレット端末を活用した予算編成会議で、立場を決めて考察したことや構想したことを説明したり、議論したりすることは、生徒の思考を促し、考えを深めていくのに有効であったと考えられる。また、このグループワークでは、生徒たちが積極的に話し合いを楽しむ姿が見られたのも大きな成果であった。

その後にあったグループごとの発表では、自分のグループ以外の予算案を見たり、考えを聞いたりしたことで、財政や予算についての考えがさらに深まったと思われる。

(3) 国語科や総合的な学習の時間における「税の作文コンクール」への応募

本校では、「中学生の税の作文コンクール」に応募している。平成 29 年度までは国語科を中心に取り組んでいた。平成 30 年度には、総合的な学習の時間を使い作品の作成に取り組んだ。

① 1 時間目

	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 租税教育の取組として、「税に関する作文」を書くことを知る。	5 分	これまでの学習を振り返り、本時の学習内容に近づけるようにする。
	2 本時の目標を確認する。 「税に関する作文」の材料を集めよう。	5 分	
展 開	3 「平成 30 年度版 わたしたちの生活と税」のパンフレットを参考にして、税についてわかったこと、考えたことについて意見を出し合う。	1 5 分	各自で資料を読み、税についての材料を集める。
	4 それぞれの班で出された意見を全体場で発表する。また他の班の意見を聞く。	1 0 分	他の班の意見を聞き、参考にする。
	5 班活動や意見発表を通して、自分の作文に活かしたい材料をメモする。	1 0 分	ワークシートの使用
	6 参考例として、前年度の入賞作品を読む。	2 分	複数の作品を印刷する。
終 末	7 次時の予告をする。	3 分	

② 2 時間目

前時で集めた材料を参考にして、作文を完成させる。なかなか書き始めることができない生徒に対しては、「平成 30 年度版 わたしたちの生活と税」を読み進めたり、過去の受賞作品を読ませたりするなどして、作文の材料集めを続けさせる。

(4) 英語科における租税教育授業

平成30年度の2月に行う予定の授業の指導案である。

	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 あいさつ ① 英語であいさつする。 ② 英語で質問される曜日、日時、天候に、英語で答える。	5分	英語の授業の雰囲気をつくり、明るい気持ちで授業に臨めるようにする。
	2 本時の目標を確認 買い物では、どのような表現を使うのだろうか。	1分	
展開	3 内容理解 ① A L TとJ T Eのモデル対話を聞く。 ② 内容についての質問に英語で答える。	5分	ピクチャーカードを使い、会話の場面を意識させる。 答えられない生徒にはヒントを出す。 机間指導を行う。 写真などを使う。 答えられない生徒にはヒントを出す。 机間指導を行う。
	4 音読練習 ① A L Tのあとについて音読する。 ② ペアで役割練習をする。	10分	
	5 異文化理解 ① アメリカの消費税についての説明を聞き、その後のクイズに答える。 ② 日本の消費税に関する英語での質問に、英語で答える。	10分	
	6 対話練習 教科書の対話文をもとに、消費税を含めて店での対話をペアで練習する。	10分	
終末	7 まとめ 本日学習した表現をノートにまとめる。	8分	自分でまとめた後に、ペア同士で確認チェックをさせる。
	8 あいさつ	1分	

(5) 社会科における租税教育授業

① 「財政政策と公債の発行」(公民的分野)

ア 目標

- ・ 財政には景気を調整するはたらきがあることを理解し、公債を多く発行していることの必然性や問題点を理解させる。
- ・ 国の経済活動において、適切な資料や情報を活用し、読み取り、図表などにまとめさせる。

イ 指導の実際

	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入 10 分	1 前時の日本の税金について小テストを行う。 2 学習課題を確認する。 *公債の発行は必要か？ 必要でないか？	・ 税の種類について復習させる。 ・ 学習課題を提示し、課題を明確にする。
展開 30 分	3 資料から国が行う財・サービスについて考え発表させる。 4 国の歳出と税収の推移の様子から気づいたことを発表させる。 5 グループで、国債の必要性について、良い点と問題点について話し合う。 【話し合いの視点】 財政政策・景気の影響・少子高齢化 外国との比較 6 グループとしての意見をまとめ、発表する。 【生徒の反応】 ○少子高齢社会が進行し、社会保障費が増大しているからしかたない。 ○このままでは日本は財政破綻してしまうから無駄使いをやめる。	・ 資料から社会資本や公共サービスの種類を確認させる。 ・ 財務省の資料から国の借金について確認させる。 ・ 資料をもとに自分の考えをグループ内で発表させる。 ・ グループの代表者の意見をまとめて発表させる。
終末 10 分	7 本時のまとめ 8 次時の予告を聞く。	・ 国民からの税収入よりも「大きな政府」は、将来の世代に巨額の負担をかけてしまうことに気づかせる。

ウ 評価

- ・ 財政には景気を調整するはたらきがあることを理解し、公債を多く発行していることの必然性や問題点を理解していたか。
- ・ 国の経済活動について、適切な資料や情報を活用し、読み取り、図表などにまとめていたか。

- ・外国の税の種類との比較： ポテトチップス税（ハンガリー）、犬税（ドイツ）
渋滞税（イギリス）
- ・国税庁，財務省のホームページから税特集コーナーの活用など

-16-

(6) 生徒作品(作文, 習字, ポスターなど)

国語科と美術科の夏季休業中課題として、「税に関する作品」の出展に取り組むことで、税に関して興味・関心を促した。そのうち数点が入賞した。なお国語科も美術科も夏休み前に事前指導を行った。平成 30 年度も継続して取り組んでいる。

① 平成 29 年度 中学生の「税に関する作文」

「私たちの暮らしを支える税」

私たちの生活は、さまざまな税によって支えられている。信号や登下校するときの道路、そして、学校。これら以外にも、いろんな場所やものに税が使われているのだ。

私が税の大切さに気付いたのは、小学六年のときだった。授業で税について学んだ。そのときは、何でもものの値段はこんなに中途半端なのだろうと思うだけで、税のことについてあまり深く考えずに暮らしてきた。その授業でビデオを見た。その中で、さまざまな税について知った。人々の命を救い、私たちの生活も支えていることが分かった。この校舎もいすも机も、税からできていることも知った。税って大切なものなんだと初めて思った。これからは、税は私たちのためにできていることを忘れず、税の大切さを頭に入れて行動し、税をむだにしないように、丁寧に扱えるようにしたい。そして、皆が使う場所ということのを忘れずに日ごろから気をつけたい。

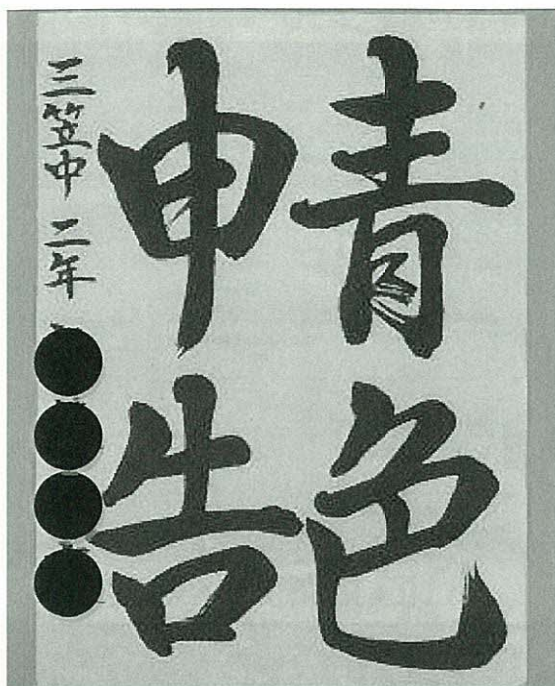
しかし私は、気になることがあった。それは、机や壁などに絵を描いたり、カッターのような刃物で文字を彫ったりしている人のことだ。小学校にも中学校にも古い机などには落書やカッターのようなもので彫った傷がある。ときには、人の悪口を書いているものもあった。私は、これを見て、なぜこんなことをするのだろう、こんなことをする人たちは、税の大切さを知らないのだろうか、私たちが過ごしやすいうように、使いやすいうようにしてくれているのに、何でこんなことをするのだろうと思った。これからは、こんなことをしないでほしい。

私が登下校するときに、木がたくさんあるところがあり、その下は田んぼなので、落ちたらケガするだろうなと思っていた。ある日、普段通り登校していると、木がたくさんあって危険な場所に、柵が立てられていた。私はこれで安心して登下校ができると思った。それと同時に、この柵も税で建てられたものなのかなと思った。改めて税のありがたさを感じた。これからも安全で安心して暮らせる社会にしたい。

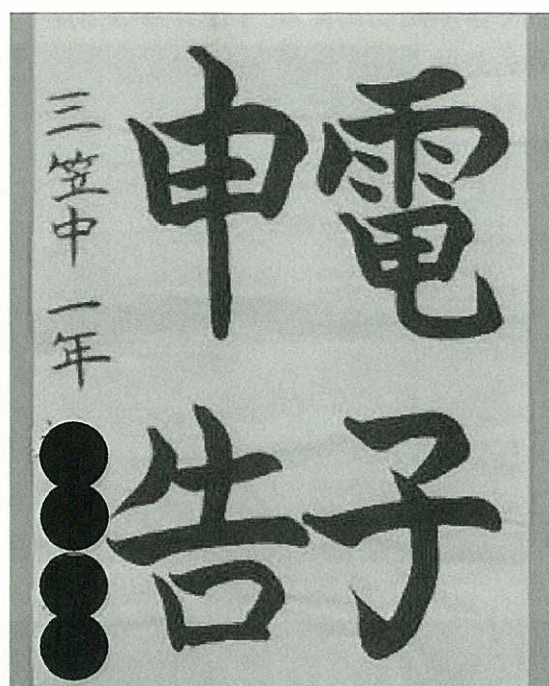
私たちは税に支えられて今の暮らしが成り立っている。このことを忘れず、暮らしていけるようにしたい。今は、税に支えられているだけだが、将来は支える側、支えられる側の二つの立場で、互いに支え合いながら一人の社会の人として、暮らしていけるようになりたい。

出水税務署長賞 (1年生)

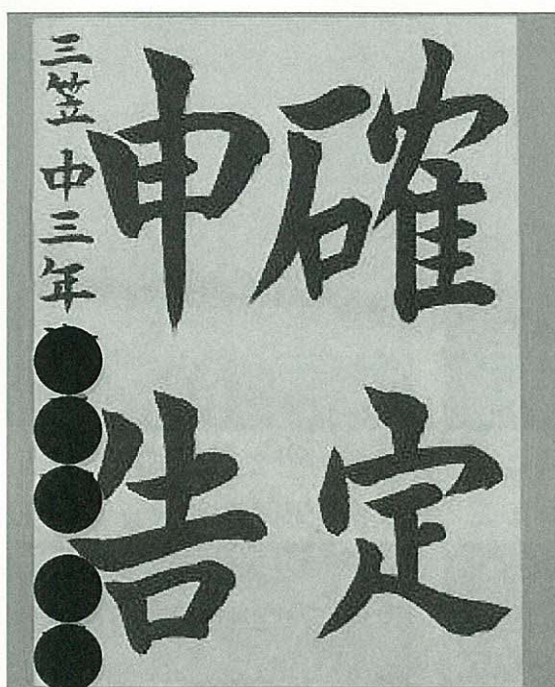
② 平成 29 年度 中学生の「税に関する習字」



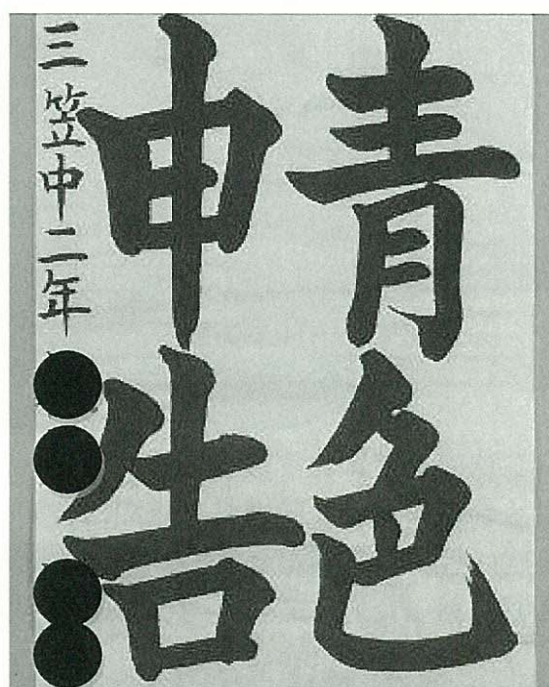
公益社団法人北薩法人会会長賞



優秀賞

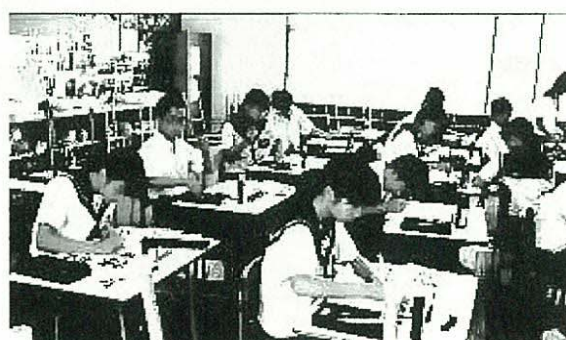


入選



入選

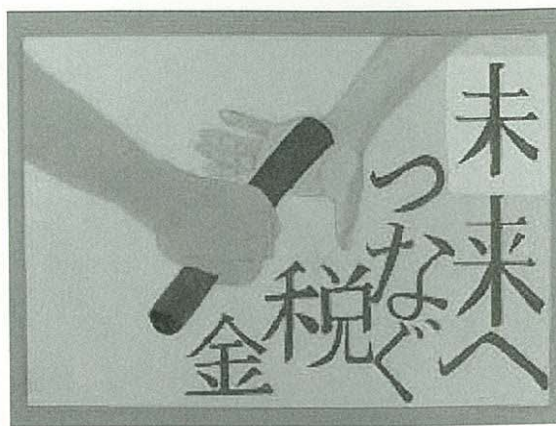
③ 事前指導の様子（国語科）



④ 平成 29 年度 中学生の「税に関するポスター」



出水地区宅建業税務協議会会長賞(1年生)



出水地区小売酒販組合理事長(1年生)

⑤ 受賞の様子

11月21日(火)に出水税務署長が来校され校長室で授賞式を行い、12名の生徒が表彰を受けた。なお受賞作品は阿久根市役所に展示された。



表彰の様子①



表彰の様子②



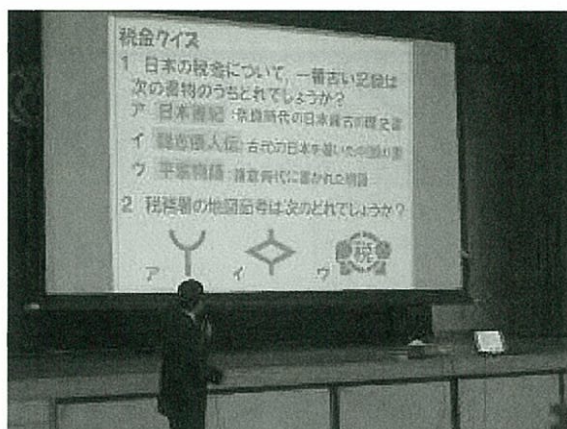
受賞者集合写真



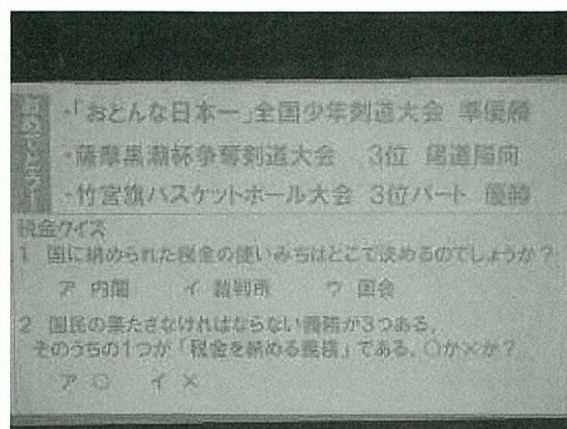
阿久根市役所に展示された作品

(7) 全校朝会での実施

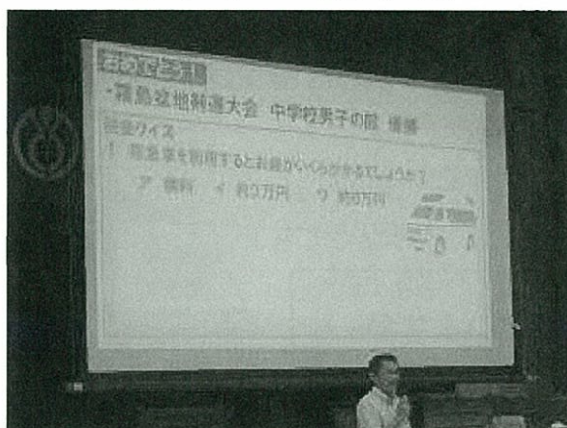
税に対する興味や関心を喚起する目的で、全校朝会において「税に関するクイズ」を出題した。クイズが始まると、意欲的に参加する生徒も見られ、興味や関心が高まりつつあると感じている。



税金クイズの様子(4月)



税金クイズの様子(5月)



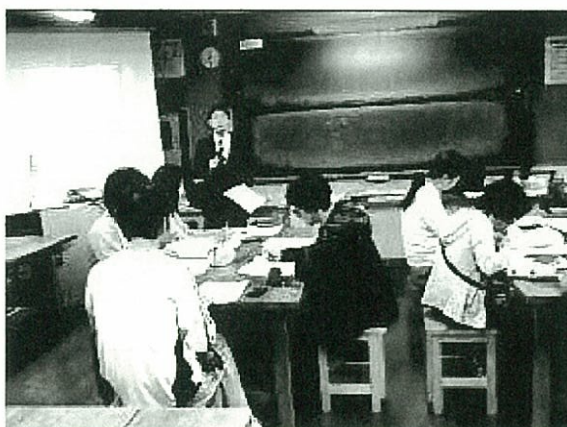
税金クイズの様子(6月)



税金クイズの様子(7月)

(8) 家庭教育学級での実施

学校内の租税教育だけではなく、身近な納税者である保護者による家庭内での働きかけも大切であると考えた。そこで保護者に向けて具体的な啓発の機会として、家庭教育学級を活用した。「暮らしの中にある税」と題し、出水税務署の方を講師として招き、基本的な税に関する知識、確定申告について、税金の使われ方などを、わかりやすく講話していただいた。



4 アンケートの実施

本校生徒の実態とその変容を調べるために、税に関する意識調査を行った。平成 29 年度の 1 年生と 2 年生、平成 30 年度の 2 年生と 3 年生の結果を比較した。2 年間の取組により、生徒たちに意識の変化が見られた。(平成 29 年 12 月→平成 30 年 7 月)

「税」に関するアンケート

次の (1) ～ (5) について、下の解答欄に番号を記入しなさい。

(1) 税について興味・関心がありますか

(1 ある 2 少しある 3 あまりない 4 まったくない)

(2) 税について家庭で話をすることがありますか

(1 よくある 2 時々ある 3 あまりない 4 まったくない)

(3) 税を納めることについてどう思いますか

(1 納めるべき 2 仕方なく納める 3 納めなくてもよい 4 納めない)

(4) 税について学習することは必要だと思いますか

(1 とても必要 2 必要 3 あまり必要でない 4 必要でない)

(5) 税金が私たちの生活に役立っていると感じますか

(1 感じる 2 少し感じる 3 あまり感じない 4 感じない)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

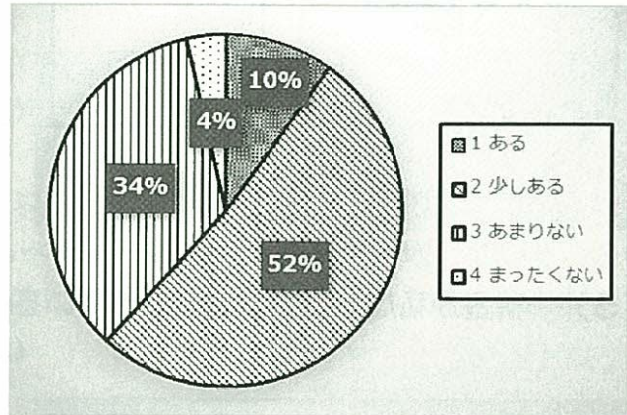
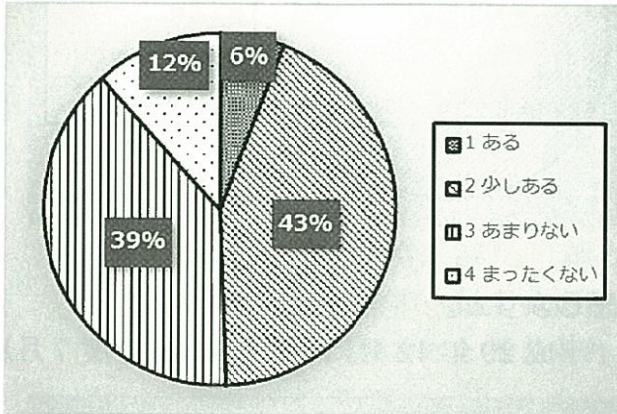
問6 あなたは税金の種類をどれくらい知っていますか。「～ 税」という記述で知っている限り書きなさい。

問7 納められた税金は、何に使われているか知っていますか。知っているかぎり書きなさい。

【「税」に関するアンケート結果】

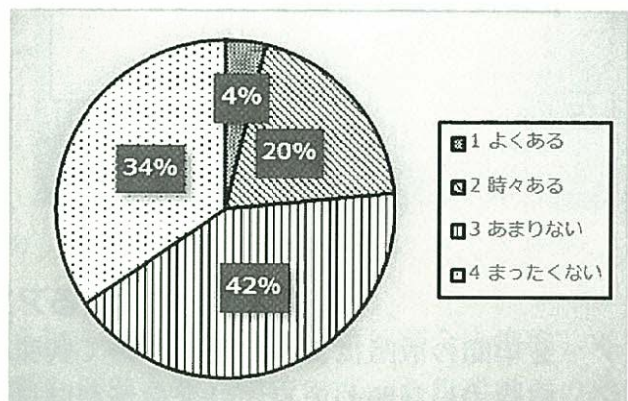
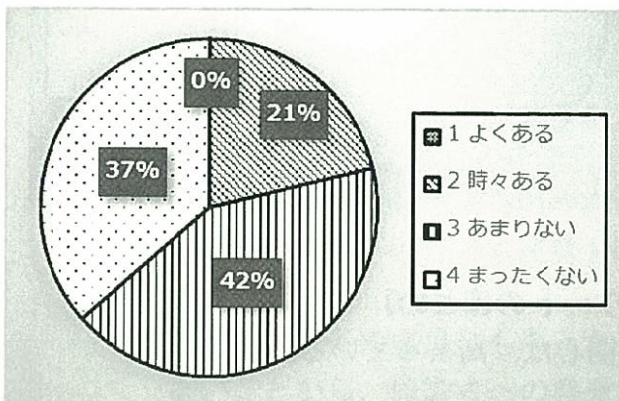
(1) 税について興味・関心がありますか。

(左：平成 29 年 12 月，右：平成 30 年度 7 月)



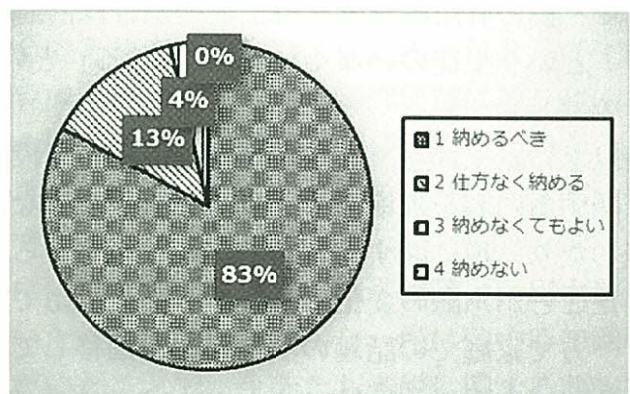
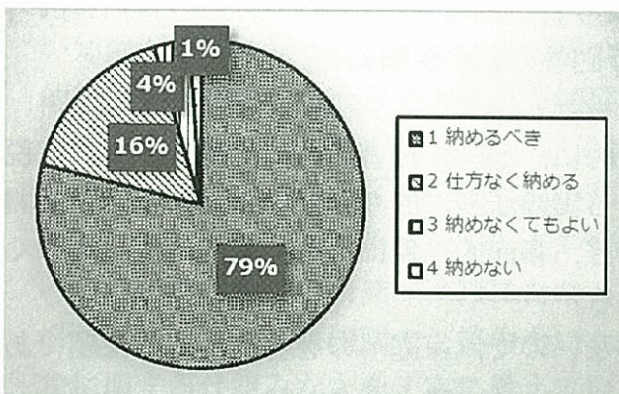
(2) 税について家庭で話をしたことがありますか。

(左：平成 29 年 12 月，右：平成 30 年度 7 月)



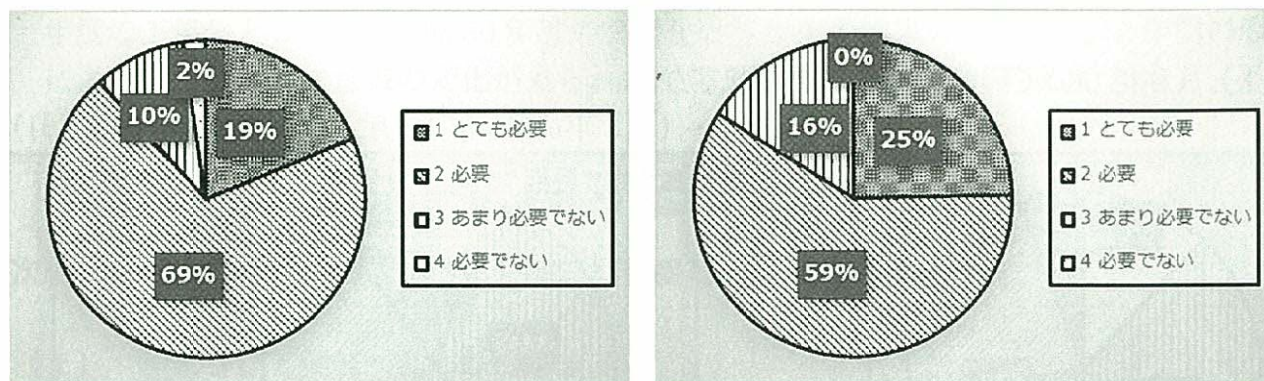
(3) 税を納めることについてどう思いますか。

(左：平成 29 年 12 月，右：平成 30 年度 7 月)



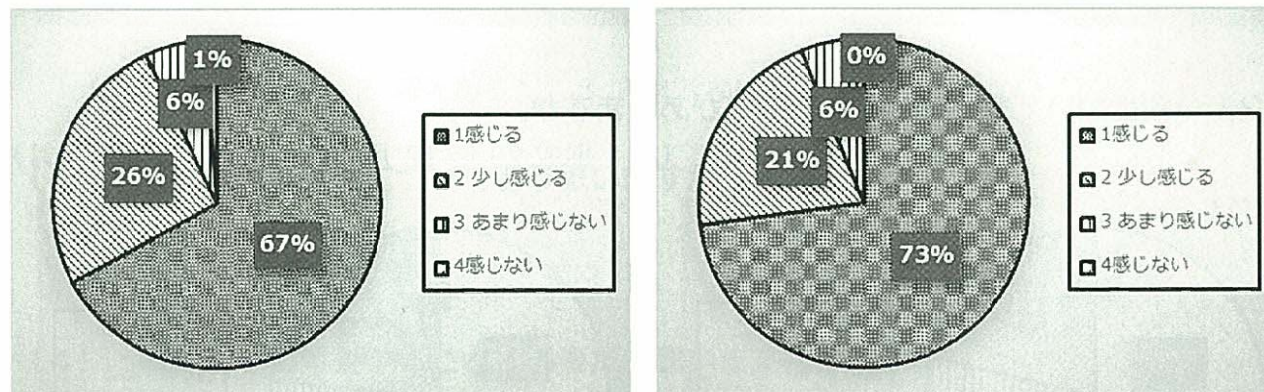
(4) 税について学習する必要だと思いますか。

(左：平成 29 年 12 月，右：平成 30 年度 7 月)



(5) 税金が私たちの生活に役立っていると感じますか。

(左：平成 29 年 12 月，右：平成 30 年度 7 月)



【「税」に関するアンケートのまとめ】

- ア 2 年間の取組により，税について興味や関心は，高まっている。
- イ 家庭での話題の項目には変化がない。
- ウ 納税に関する考えは，当初より肯定的な生徒が多かったが，「仕方なく納めるべき」という生徒の割合が減り，「納めるべき」という回答の割合が増えた。
- エ 税に関する学習の必要性では，大きな変化はない。
- オ 税の有用感を感じる生徒の割合は，当初より肯定的な生徒が多かったが，「感じない」という生徒のいなくなり，「感じる」という回答の割合が増えた。

以上の結果から，2 年間，学年に応じて段階的に，学校の教育活動の全領域において税に関する内容を再検討し，視点を明確にしながら実践活動に取り組む中で，租税教室を開催したり，税に関する作品に応募したりするなど，多面的に税について考える機会をつくったことが意識の変化につながったと考えている。

一方で家庭での話題の項目が全く推移していないので，家庭への啓発が今後の課題である。

これからも引き続き租税教育をすすめ，税金に対してより興味，関心を高めていけるようにするとともに，PTAや家庭教育学級を通じ，保護者へも積極的に働きかけをしたい。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ① アンケートの結果からわかるように、2年間の租税教育の取り組みを通して、税に関する生徒たちの興味・関心を高めるとともに、税の意義や役割を正しく認識させることができた。
- ② 学校の教育活動の全領域において税に関する内容を再検討し、視点を明確にしながら実践活動に取り組むことができた。
- ③ 今後の社会のあり方について学ぶことができたため、「仕方なく納めるべき」という生徒の割合が減り、「納めるべき」という回答の割合が増えている。この結果から、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成することができたと考えられる。

(2) 今後の課題

- ① 税に関する学習に取り組む中で、税に関する知識や興味、関心は高くなったが、税を身近なものとして捉え、常に意識して行動しようとする姿勢を育むことが不十分であったと感じている。今後は、新聞記事を活用したり、税に関するニュースを提供したりすることで、税への親近感を感じられるように取り組みたい。
- ② 全領域にて租税教育を行ったが、今後はさらに「特別活動」の係や「総合的な学習の時間」の係とも連携を図り、一つ一つの活動をさらに充実させたい。
- ③ アンケートの結果にもあったように、家庭での話題の項目が全く推移していないことから、保護者への啓発活動を充実させ、学校で行った租税教育の内容の発信について考え、実行する必要がある。

6 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として「租税教育を通して、租税について正しい知識と理解を深めるとともに、今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する」をテーマに研究実践に取り組んできた。各教科での取組だけではなく、学校の教育活動の全領域における取組ができた。今後は、社会の一員として主体的に行動できる人間に成長してできるように、今回の取り組みを継続、発展させていくことが重要である。

本校の租税教育の研究・実践にあたっては、出水地区租税教育推進協議会、出水税務署など、多くの関係機関のご協力をいただいた。専門的な立場から、税に関する知識や税に関する仕組みなどを丁寧に教えていただいたことで、生徒たちの税に関する興味・関心を高め、理解を深めることができたと思われる。関係機関の方々には感謝を申し上げたい。